

(仮称) 図書館中部館整備工事
基本設計書 [概要版]

令和6年7月

1. コンセプト	1
2. 配置・外部動線計画	3
3. ゾーニング・内部動線計画	4
4. 建築計画	5
5. 概算工事費	7

1. コンセプト



外観

交流ストリートを延長させ、アリーナと一体的に賑わいを創出

(仮称)図書館中部館は、アリーナのスポーツ交流棟とまちなか交流棟の間を通る「交流ストリート」の延長線上にあり、アリーナとの関係を考慮する必要があります。屏風状のルーバーファサードにより、アリーナとは対比的に、木造建築のような温かみのある建物で交流ストリートのフォーカスポイントとなります。



付近見取図 S=1:6,000

施設概要

施設名称	(仮称)図書館中部館
所在地	滋賀県彦根市小泉町 648番 3号 ほか
敷地面積	6,343 m ²
構造	既存部:RC造、一部鉄骨造 増築部:木造、一部鉄骨造
階数	地上2階
建築面積	1,867 m ²
延床面積	2,774 m ²

ガラスと木を組合せた屏風のようなファサードが内外空間を仕切り連続させる

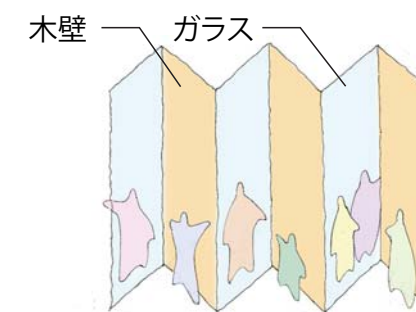
"彦根市民の誰もが日常的に利用したい、そして愛着のもてる施設"を目指します。彦根ならではの建築とするため、建築を"彦根屏風"のような木製ルーバーで覆いました。

元来、屏風とは空間を仕切る軽い壁だが、この屏風状のルーバーファサードにより外と図書館内を視覚的には連続させつつも内外の空間を適度に仕切ります。また彦根屏風は風俗画の傑作として知られていますが、このルーバーファサードは建物に集まる人々の様子を映し出し、あたかも彦根屏風に描かれた絵のように見えます。



国宝彦根屏風

||



ルーバーファサード

1. コンセプト



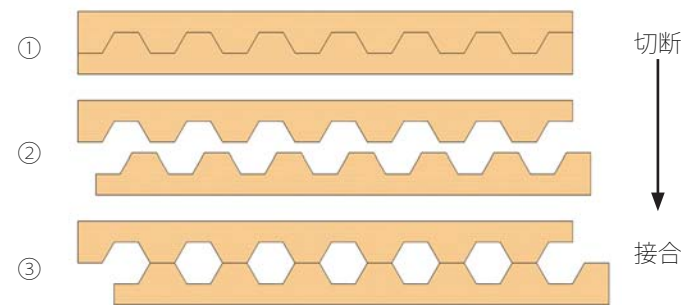
内観： 閲覧ラウンジから外を見る



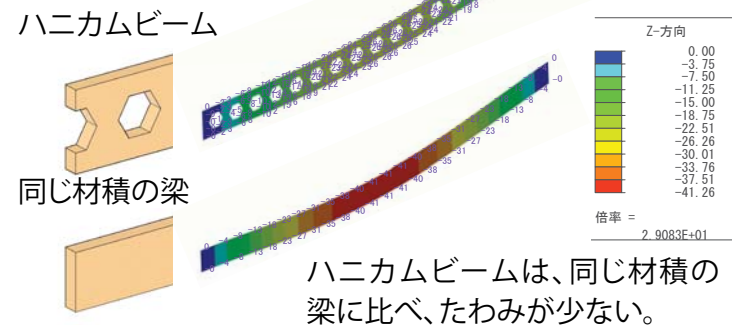
内観： エントランスから閲覧ラウンジを見る

大スパンを合理的に実現するCLTのハニカムビーム

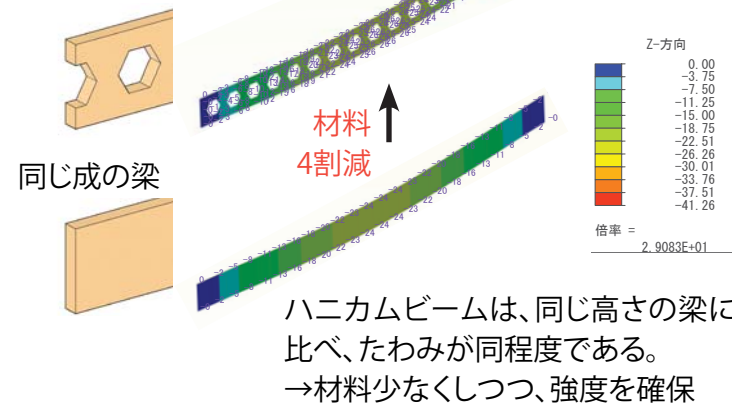
ハニカムビームとは木材を互い違いになるように切断してつなげることで少ない材積(木材の量)で大スパンを飛ばすことができる合理的な架構です。六角形の孔ができることから"ハニカム"と呼ばれ、彦根市章が連想されます。CLTを用いることで歩止まりよくでき、他の集成材やLVLなどに比べ、安価に製造することができます。



ハニカムビームの合理性の検証： -同じ材積の梁との比較

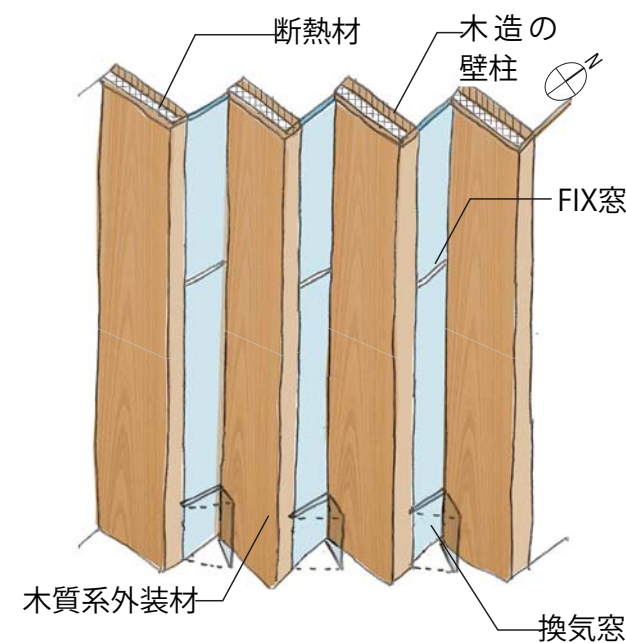


-同じ梁成の梁との比較

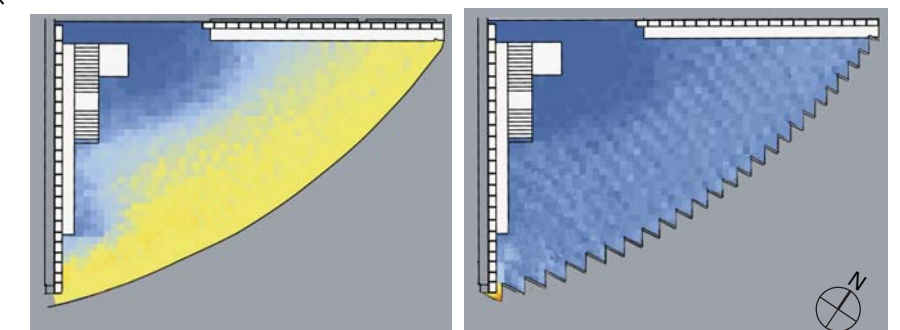


日射遮蔽と最適な自然光を取込むルーバーファサード

屏風状のファサードは木造の壁柱を南面に向けて並べることでルーバーの役割を果たし、日射遮蔽に効果があります。



また開架ラウンジのファサードは彦根の太陽経路から導かれた蛇腹形状によって、南を閉じて東に向けて開き、年間でも直射光の入射を10%以下に抑制でき、常に安定した間接光によって視環境を整えます。下図の比較の通り、全面ガラスの場合に比べ、ルーバーファサードでは、年間で直射光が入る時間の割合が半分程度にまで低くなっています。

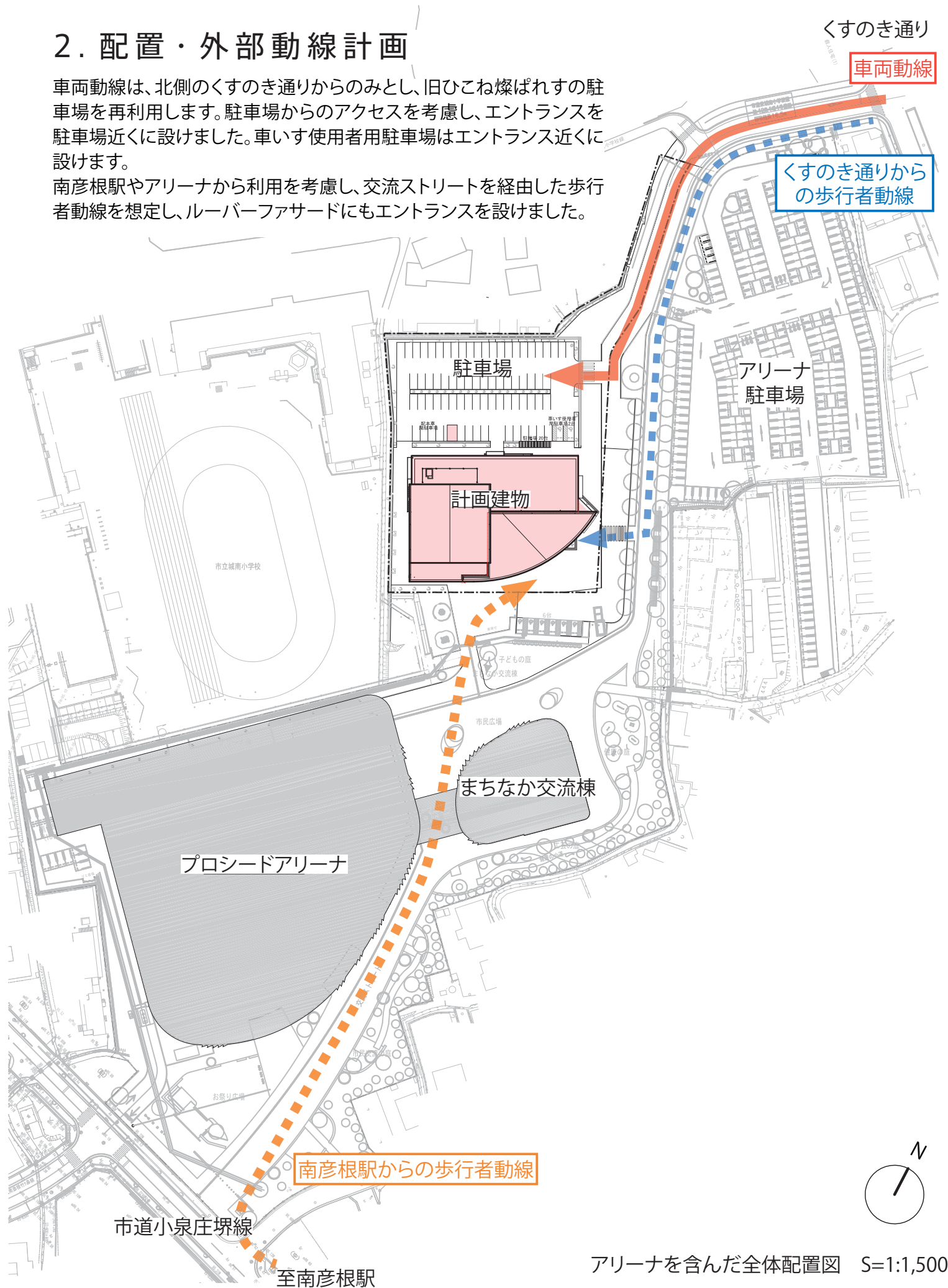


年間直達光割合シミュレーション

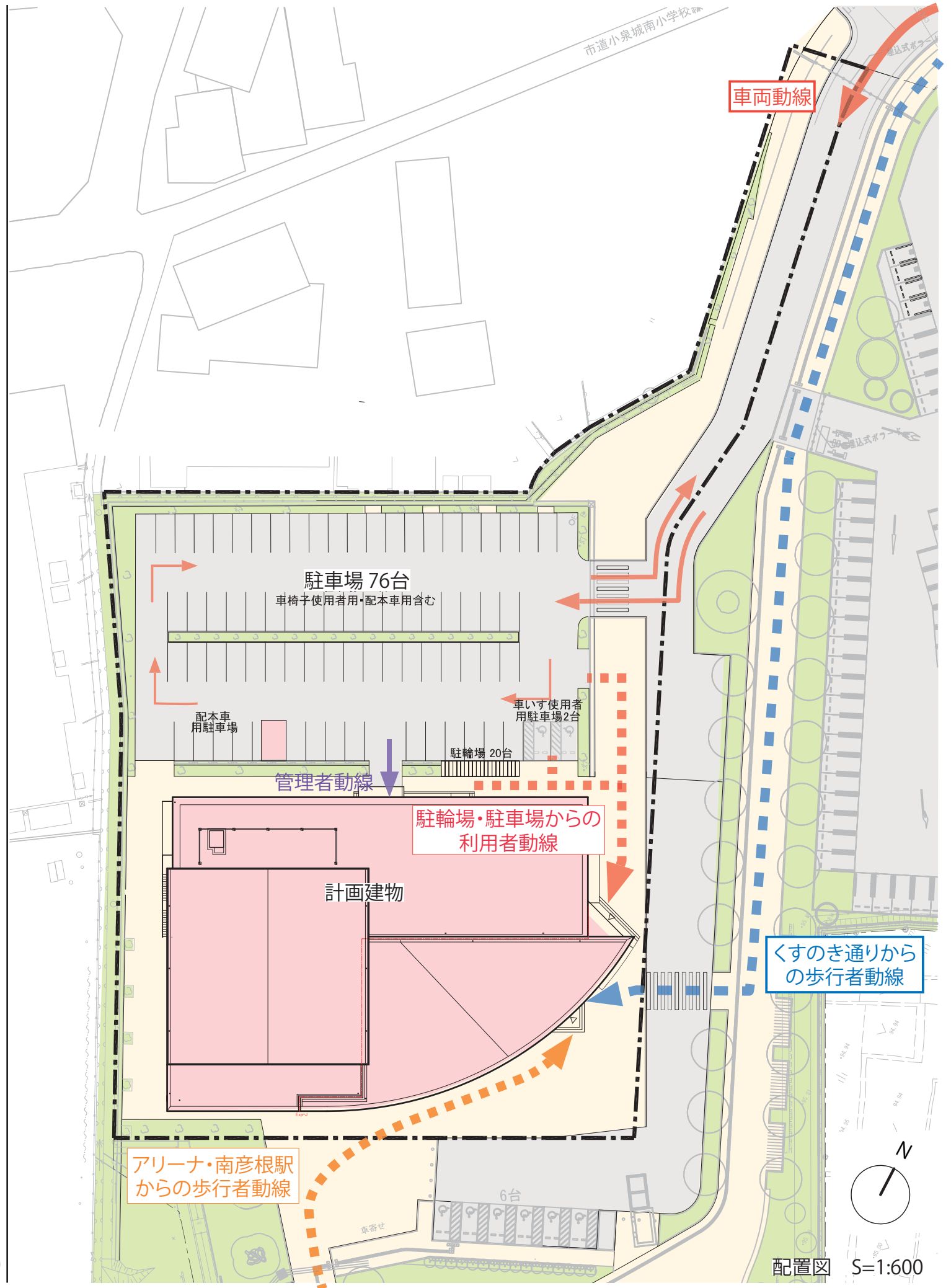
2. 配置・外部動線計画

車両動線は、北側のくすのき通りからのみとし、旧ひこね燦ぱれの駐車場を再利用します。駐車場からのアクセスを考慮し、エントランスを駐車場近くに設けました。車いす利用者用駐車場はエントランス近くに設けます。

南彦根駅やアリーナから利用を考慮し、交流ストリートを経由した歩行者動線を想定し、ルーバーファサードにもエントランスを設けました。



アリーナを含んだ全体配置図 S=1:1,500

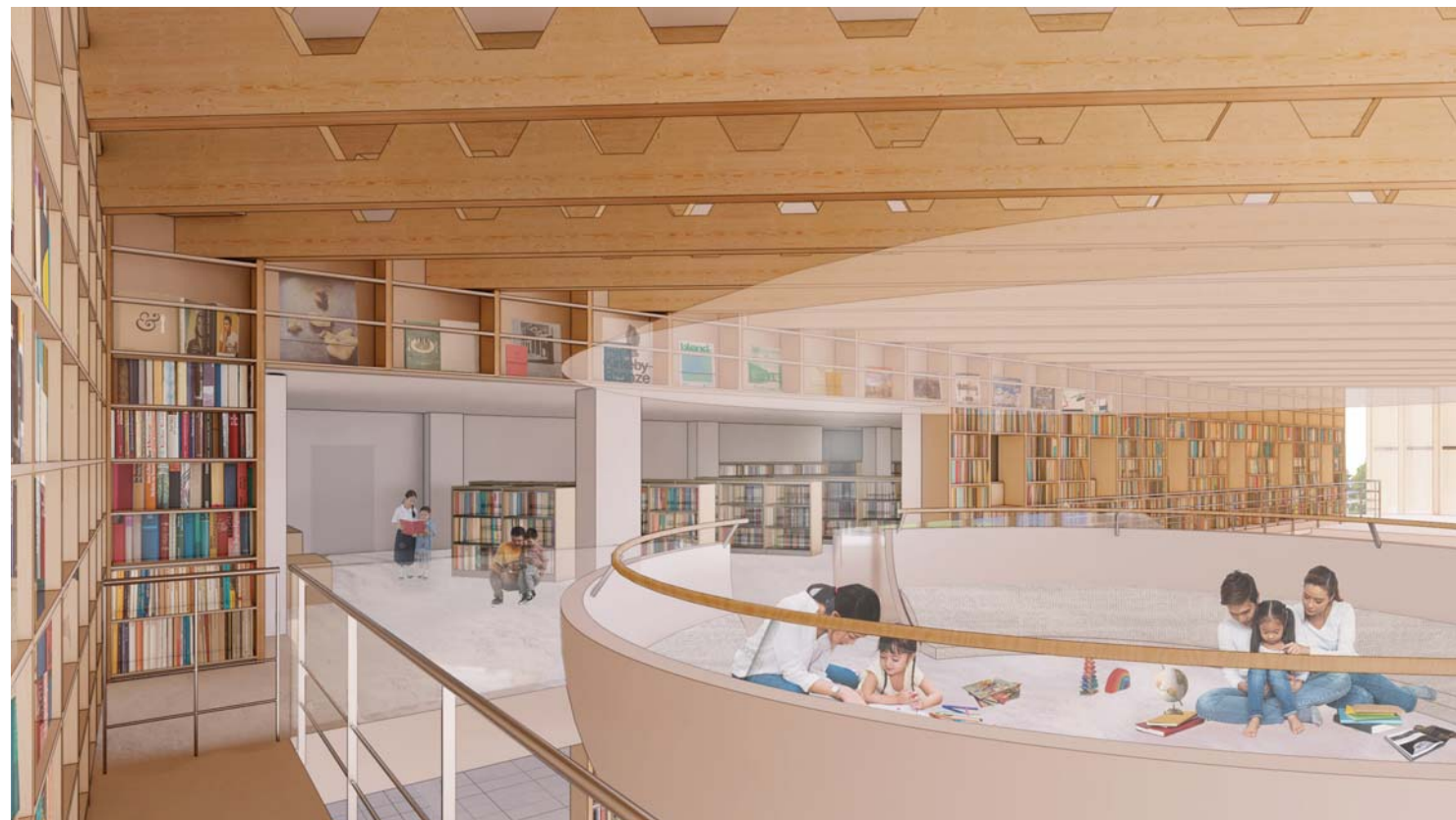


配置図 S=1:600

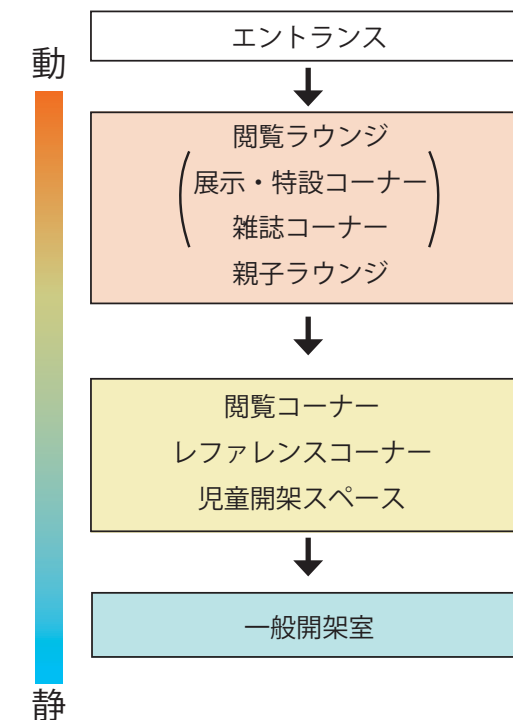
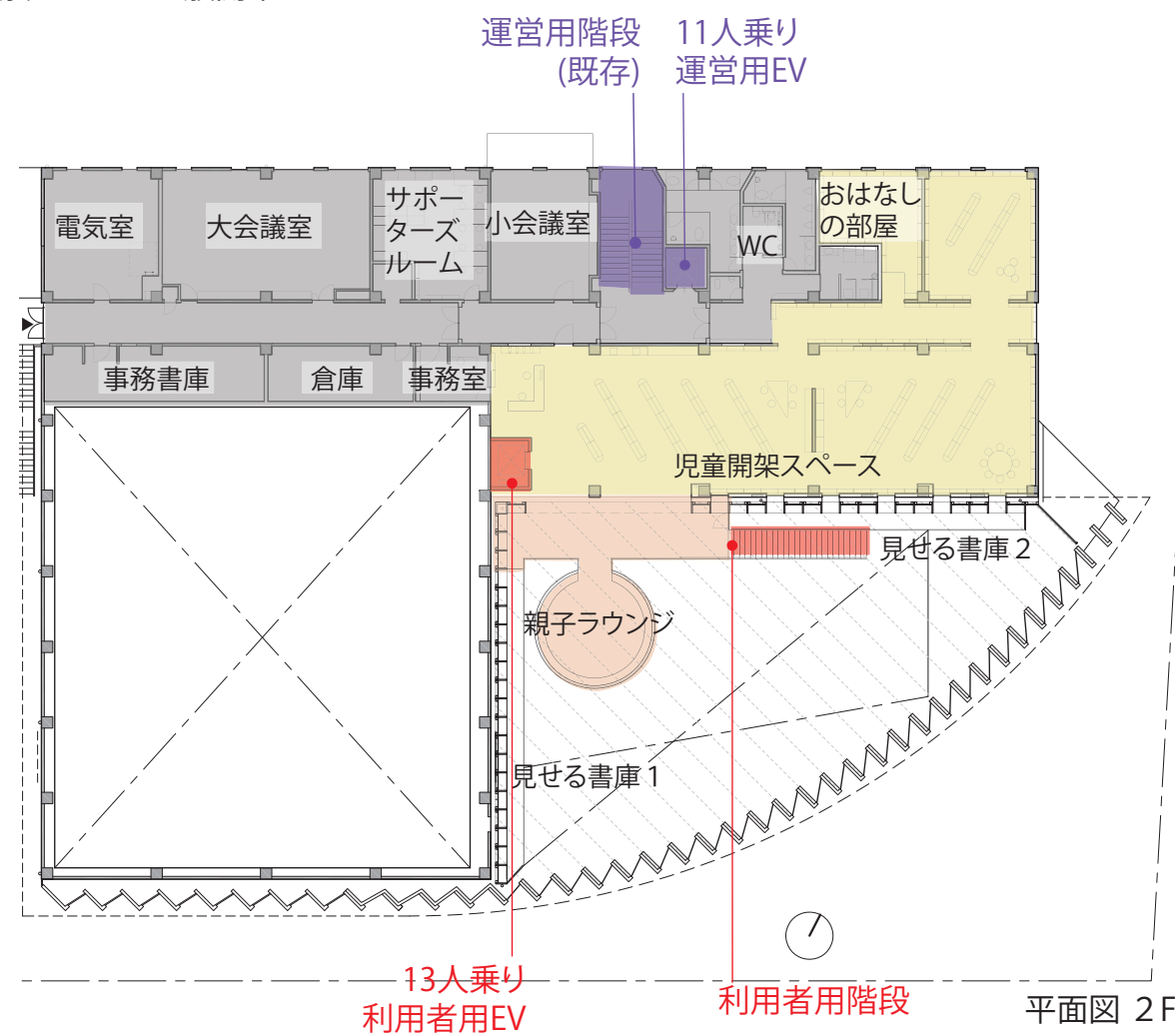
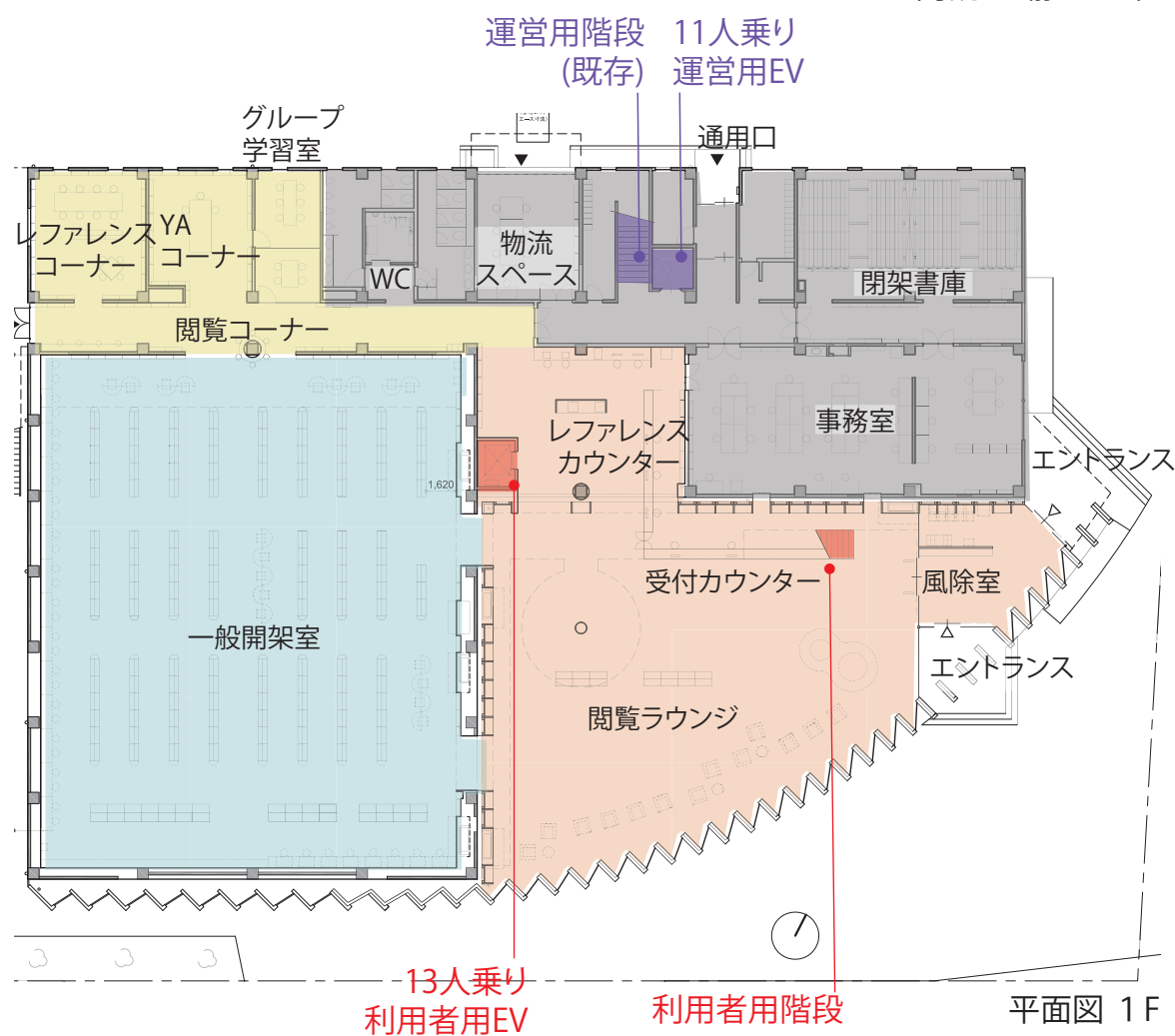
3. ゾーニング・内部動線計画



内観： 静かに本と触れられる一般開架室



内観： 親子ラウンジと児童開架スペース



音のゾーニングとして、エントランス近くに議論・交流ができる閲覧ラウンジや親子ラウンジを設けます。次に会話や学習ができる児童開架スペース、閲覧コーナーを設け、さらに奥には静かな閲覧や精読を行う一般開架室を配置します。階段やEVはエントランスから動的な空間のみを経由し、一般開架室の静粛さを保ちます。

4. 建築計画 1F



※書架配置は今後変更する可能性があります。

平面図 1F

一般開架室

- ・7万冊程度を収蔵した書架を、ジャンル別に配置します。
- ・書架間は、車いす使用者同士がすれ違える通路幅を確保します。
- ・新聞閲覧席は、落ち着いて読めるよう、閲覧ラウンジではなく、一般開架室に設置します。
- ・OPAC (検索機)は、利用しやすいよう、分散して配置します。
- ・ゆっくり本を読んでいただける、選んでいただけるよう、閲覧席を多数設置します。

閲覧ラウンジ

- ・時節に応じた情報提供や企画展を行う、展示・特設コーナーを設置します。
- ・出入口にBDSを設置し、本などの盗難防止に努めます。
- ・サービスカウンターは、利用しやすいよう、出入口近くに設置します。
- ・利用者の待ち時間の短縮を図るため、自動貸出機を設置します。

レファレンスコーナー

- ・独立したコーナーとして、設置します。

YA (ヤングアダルト) コーナー

- ・独立したコーナーとして、設置します。

グループ学習室

- ・独立したコーナーとして、設置します。

対面朗読室

- ・読書することが不自由な方に図書を代読する部屋として利用できる対面朗読室を、独立したコーナーとして、設置します。

閲覧コーナー

- ・一般開架室とレファレンスコーナーなどをつなげ、一体的に利用しやすいよう、閲覧コーナーを設置します。

風除室 1

- ・利用しやすいよう、ブックカート置場を設置します。
- ・利用しやすいさと発生音を考慮し、除菌機を設置します。

事務室 1

- ・エントランス、サービスカウンター、レファレンスカウンターにアクセスしやすい場所に配置します。
- ・ブックポストを出入口近くの外壁面に設置し、事務室 1 内に投函することで、その後の処理がしやすい計画とします。
- ・ブックポストの上部には、悪天候時に本を返却する際、本が濡れないよう、深い庇を設置します。

閉架書庫

- ・主に集密書架を設置し、5万冊程度の収蔵スペースを確保します。

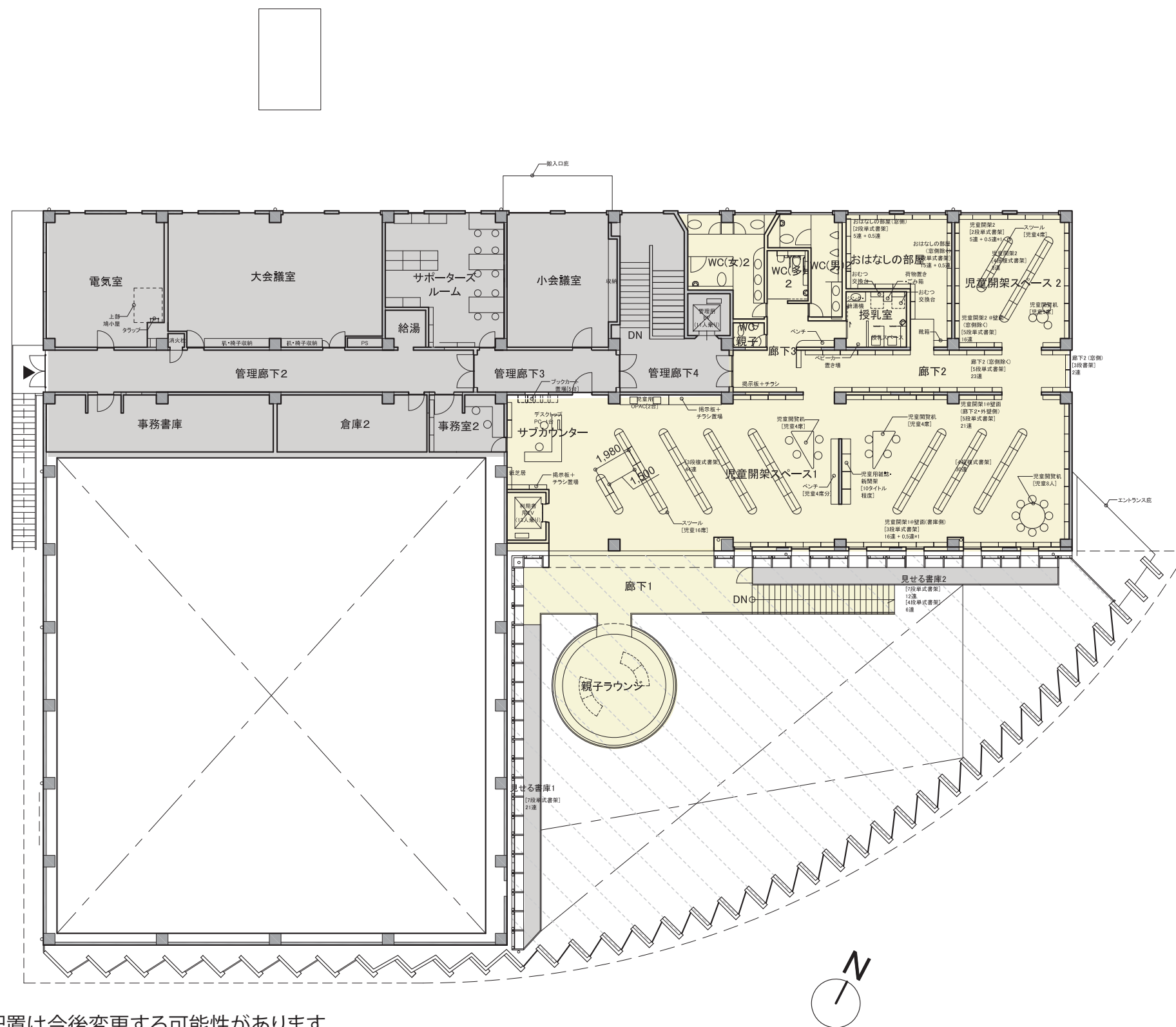
WC

- ・多目的WC内に、大人でも使用できる折りたたみベッドを設置します。

その他の諸室

物流スペース、更衣室、倉庫 1、給湯室、風除室 2 など

4. 建築計画 2F



※書架配置は今後変更する可能性があります。

児童開架スペース1・2

・3.5万冊程度を収蔵した書架を、ジャンル別に配置します。

おはなしの部屋

・おはなし会を実施する部屋として、設置します。

親子ラウンジ

・家族向けの本を配置し、親子でゆっくり本を読むスペースとして、設置します。

見せる書庫

・閲覧ラウンジに面する2F壁面には、天井まで連なる書架を設置し、本を並べ書庫として利用します。スタッフのみがアクセスできる空間とします。

授乳室

・授乳やおむつ交換ができる部屋として、設置します。

大会議室

・会議やイベントなどに使用する部屋として、設置します。

小会議室

・職員会議やイベントなどに使用する部屋として、設置します。

サポーターズルーム

・図書館ボランティアの活動場所のほか、備品収納としても利用します。

事務室2

・2階にも職員を常時配置します。

WC

・親子で一緒に入れるWCを設置します。
・男子トイレ、女子トイレともに個室にベビーチェアのある個室を用意し、子供連れに配慮します。

その他の諸室

倉庫2、事務書庫など

平面図 2F

5. 概算工事費

令和 6 年 6 月 時点	1,598,300,000 円 (税込)
令和 4 年 4 月 時点	1,403,820,000 円 (税込)

※注 1：概算工事費について、『旧ひこね燦ぱれす図書館化調査検討報告書（令和 4 年 7 月）』では 1,403,820,000 円（令和 4 年 4 月時点）と設定していましたが、令和 4 年 4 月から令和 6 年 6 月までの間で、建設費物価指数が約 15.4% 上昇したことから、その分を加算すると 1,620,008,280 円となり、その額よりも下回る結果となっています。

※注 2：令和 6 年 6 月時点の 1,598,300,000 円については、今後の物価等の変動により増減します。

※注 3：想定している財源

(1)	国庫補助金	都市構造再編集中支援事業補助金	補助率 50%	799,150,000 円
(2)	起債	公共事業等債	充当率 90%	719,200,000 円
(3)	交付税措置	元利償還金の 9 分の 2		159,800,000 円
(4)	市費負担整備費			1,598,300,000 円 - (1) - (3) = 639,350,000 円